



多摩川

第2回

子ども環境

シンポジウム

みんなの発表誌

平成 21 年
12月5日(土)に
フォレスト・イン昭和館(昭島市)で
発表された内容を
まとめました。



美しい多摩川フォーラム

ご挨拶

多摩川は多摩地域だけでなく東京圏のシンボルです。各種の事業活動を通じてこのシンボルをより美しくより気高いものにするために、2007年「美しい多摩川フォーラム」は生まれました。多摩川の持つ自然と歴史文化の豊饒さを再発見し、次世代につなげてゆくために、このフォーラムは、市民の人たちも含め行政、産業、大学がおもな構成団体となって、「美しい多摩川100年プラン」を掲げ、地域活性化部会、環境清流部会、教育文化部会で熱心に討議、研究、諸事業活動が続けております。

さて、教育文化部会の事業活動の幹ともなる一つとして「多摩川子ども環境シンポジウム」があります。今回で第3回目になりますが、個人も含めて年々参加団体が増えていると同時に、内容もそれぞれ多岐にわたり、質的にも向上しているように思います。

開会にあたり、いつも私は子供たちに「君たちは私たち大人に、たくさんの夢とアイディアと情報を持ってきてくれる未来からの留学生ですよ」と話しかけることにしています。その理由は、私たち親の世代の決定が彼らの世代に与える影響の強さに彼らに気づかせ、親の世代へ警鐘を「早目にはっきりと」鳴らしてもらいたいからですし、近い将来彼らも親の世代になるわけですから、地球にやさしいあるいは持続可能な社会を目指して「新たな行動原理や生活スタイル」の確立を、このシンポジウムを通じて今から準備してほしいからです。

報告書にも一部掲載されているように、今回も小中学生が多摩川をテーマにした対象物に、子供ながらの興味ある視点でアプローチし、自信を持って楽しく発表してくれました。理科離れが懸念されている昨今、このようなシンポジウムを通じて、環境は言うに及ばず「サイエンス」全般への関心も深まってくれたらという願いもあります。

最後になりますが今回のシンポジウムを計画し、支えてくださった関係各位に深く感謝申し上げます。

美しい多摩川フォーラム 会長 細野助博



目次

◆開会挨拶・開会宣言	2
【発表】	
①「多摩川と飲み水の旅」 ～たちかわ水辺の楽校～	3
②「多摩川で魚とり」 ～私立和光小学校～	5
③「炭焼き体験と水辺の交流会」 ～美しい多摩川フォーラムの活動に参加して～	6
④「奥多摩川・四季の野鳥」 ～青梅・多摩川水辺のフォーラム～	7
⑤「おさかなポスト」 ～私立和光小学校～	9
⑥「多摩川あゆ太郎物語」 ～ガサガサ水辺の移動水族館～	11
⑦「私たちの水辺の楽校」 ～浅川潤徳水辺の楽校～	13
⑧「水質調査と生物調査」 ～八王子市立上柚木中学校～	17
⑨「森とともに」 ～小菅村立小菅小学校～	19
⑩「多摩川の外来魚」 ～私立和光小学校～	21
⑪「羽田遠漕体験記」 ～多摩川でボートを楽しむ会～	23
⑫「地球温暖化と多摩川」 (特別講演)	25
◆作品賞表彰・閉会挨拶・交流会	26

開会宣言



これから、第2回 多摩川子ども環境シンポジウムを
始めます。

みなさん、元気よく発表しましょう！

青梅市立河辺小学校 5年 大槻 航平 くん



会場アンケート回答者

性 別	男		女		不詳		合計	
人数・構成比	21	60.0%	12	34.3%	2	5.7%	35	100%

年 齢 別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
人数	8	3	3	12	4	2	2	1	35
構成比	22.9%	8.6%	8.6%	34.3%	11.4%	5.7%	5.7%	2.8%	100%

会 員 別	会員		非会員		不詳		合計	
人数・構成比	10	28.6%	16	45.7%	9	25.7%	35	100%



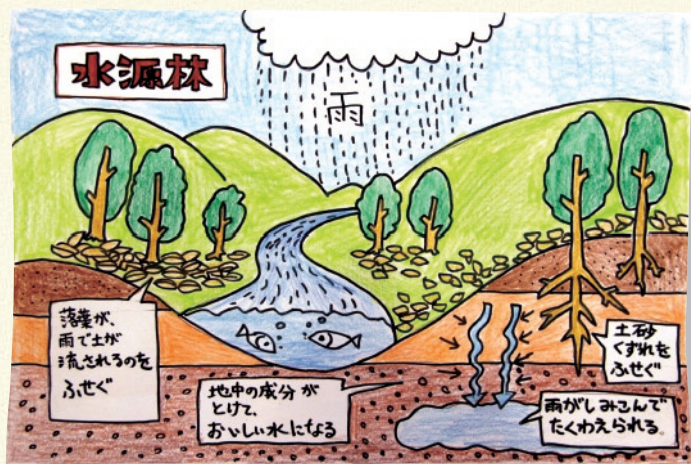
私は、たちかわ水辺の学校に参加して、多摩川に行く機会が増えて、多摩川が大好きになりました。10月にも多摩川の源流に行ってきましたので、身近な多摩川と私たちにとって、大切な飲み水について考えることにしました。

多摩川の源水から、私の住む立川までの飲み水の旅を調べました。

水が大切だということは、生き物ならだれしもが知っています。水がないと生きていられないからです。

私も大切に思う一人です。

川の源流域には、水源林といわれる森林があります。地上にふった雨は、そのまま川に流れこむほか、森林の落葉や木の枝などが積み重なってスポンジ状になったやわらかい土にしみこみ、ゆっくりと時間をかけてわき水となって地表に出てきます。



私はたちかわ水辺の楽校で、笠取山に登ってきました。山に登ると、森の香りがして、緑のコケや、どんぐり、落葉がたくさんありました。しめっている地面はだん力があり、水をたくわえているんだなあと感じました。森が「緑のダム」とよばれているのがよくわかりました。この緑のダムが貯水そうの役目を持っているから、雨水を短時間で川に流さず、洪水が発生することをふせいでいるのです。



分水れいは、三つの河川に分かれて流れていきます。東側にふった雨は荒川になり、東京湾に流れこみます。西側にふった雨は富士川になり太平洋に流れます。南側にふった雨は奥多摩湖にたくわえられ、多摩川になります。



水干の水神社にも行きました。ここは、多摩川の水の始まるの場所です。

海ばつ1865メートルの岩の間から笠取山の地下水がしみ出ている所です。さわってみたら、とてもつめたかったです。

と中で細い川が流れていました。これが多摩川の源流です。

多摩源流

笠取山

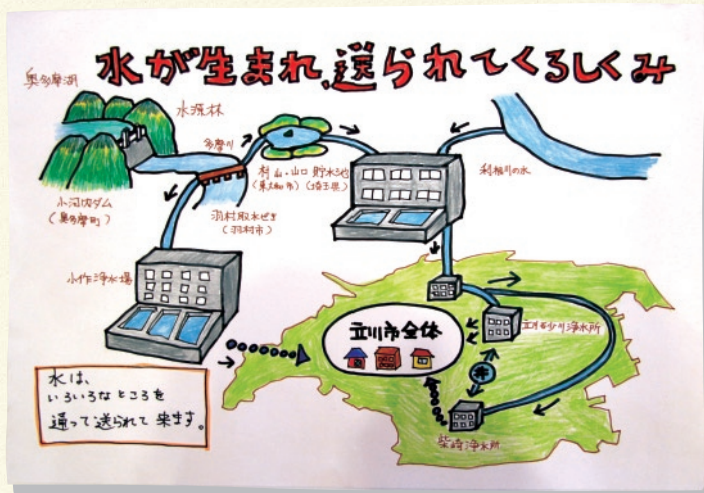
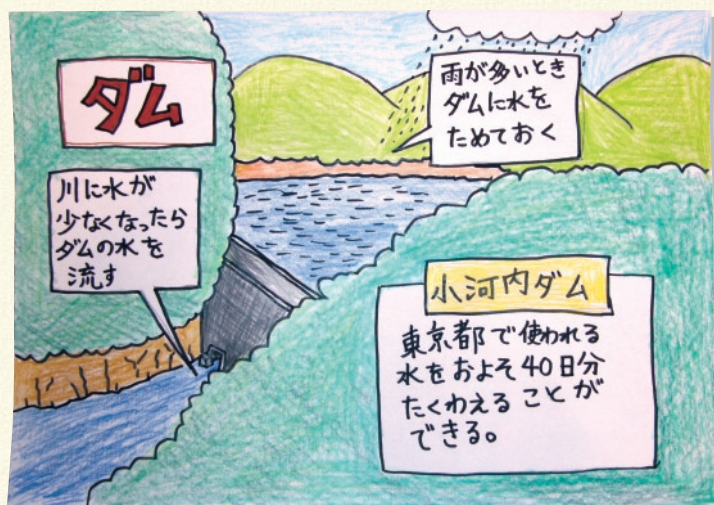


このように、雨水は、水源林にたくわえられ、その地下水がわき出してせせらぎとなり、流れこむ水を集めて、じょじょに川はばを広げながら流れ下っていくのです。



私たちの飲み水は、1957年東京都が作った小河内ダムに貯水され、川となり、小作取水せき、羽村取水せきで水道源水として取水されます。そして、羽村せきから取り入れられた水は、村山、山口貯水池、玉川上水などへ流れていきます。

玉川上水は、昔から東京都民の大切な飲み水の一部として使われてきました。江戸時代、水不足をかい決するために、人々は羽村から四谷大木戸まで約43キロメートルの上水道をほったのです。さらに33にのぼる分水がひかれ、飲み水ばかりではなく、新田開発にも役立ったのです。



私の住む立川市では、玉川上水の水を東村山浄水場、小作浄水場から、立川砂川浄水所、柴崎浄水所に送られます。きれいになった飲み水は、給水タンクにためられ、配水管を通り、私たちの所へ運ばれてきます。

このように、水は長い年月をかけながら旅をしているからこそ、きれいでおいしい水が飲めるのだな、と感じました。また、水源林や川やダムを守る人や地域の協力があるからこそ、私たちの所にとどくのです。

私は「川は血管のようなものだ」と本で読んだことがあります。血は人間の体中をめぐり、全身に元気の源・栄養を送っています。川が地球の血管のようなものとしたら、川の水がよごれてきたなくなってしまうたら、地球全体に元気がなくなってしまうような気がします。

水をたくわえる森林を大切にし、山も土も川も、そして、私たちの町もよごさず、守っていく事が大切だと思いました。また、地球の血管、川がきれいになれば、海もきれいになります。まずはみんなで、身近にある大好きな多摩川を守っていき、地球も、そこに住む私たちも元気でいたいと思いました。

和泉多摩川の
絵を書きました。



これは、学校のグループ活動で、外来魚をとっている時の絵になります。

とれた魚は、何かの稚魚やスジエビでした。その時、おじさんに国内外来魚タカハヤという魚をもらいました。

このアミは、魚とり用のタモアミというアミです。

川に入るときは、ライフジャケットを着ます。

魚とりをしているときは、すごく楽しかったので、この絵を書きました。

会場展示のようす





ぼくは、夏休みに
「炭焼き体験と水辺の交流会」に
参加しました。



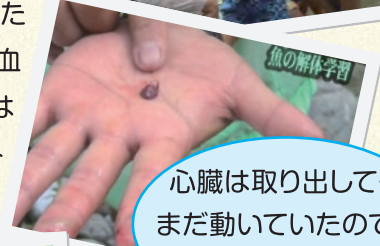
はじめに、竹炭ができるまでを
パネルで説明してもらい、次にかまの中から、自分
で竹炭を取り出しました。

次に、魚のつかみ取りをしました。アユやヤマメがたくさん
囲いの中に放流されていました。みんなが川に入る以前は
水がすんでいて、どこに魚がかけているのか、すぐに分りま
した。でも、つかみ取りのためにたくさん人が入っていくと、
川底の砂が舞い上がって水がにごって見えなくなりました。

ぼくは以前、ヤマメのつかみ取りをしたことがあったので、簡単にできると思ってい
ましたが、とても難しかったです。

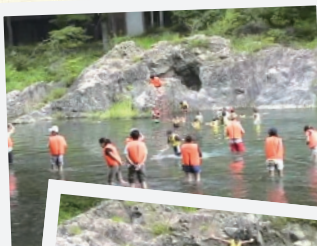


その後、つかみ取りでとった
魚をさばきました。魚から血
がたくさん出てきて、内臓は
プニプニしていてゼリーみ
たいでした。



心臓は取り出しても
まだ動いていたので、
びっくりしました。

次に、ライフジャケットを着けて、上流から下流まで流
れる体験をしました。川の流れる、見た目ではそんなに速
く見えなかったけれど、実際に流れてみると、速い所と遅
い所があって驚きました。



それから、飛び込みをし

ました。最初は、用意された脚立から飛び込みまし
た。学校の黒板の上くらいの高さだったので、全然こわくな
かったです。でも、ぼくの前の人が飛び込んだときの水しぶきが、顔にあたって冷た
かったです。次に、もっと高い岩の上から飛び込みました。ぼくの家

の二階の窓から下を見るのと同じくらい高かったので、少し勇気がいりました。飛び込んでみたら、楽しくて、何度も飛び込みました。



川遊びをたくさん楽しんで、みんなが帰り支度を始めたころ、スタッフのお兄
さんがつかまえたカエルを見せてくれました。それは10円玉くらいの大きさで
した。絶滅危惧種のカエルだということを聞いて、びっくりしました。このまま
ここで大きくなってくれたらいいなと思いながら、自然にかえしてあげました。

ぼくの住む青梅市を流れる多摩川が、いつまでもきれいで、楽しめる川であっ
てほしいなと思いました。

青梅市立河辺小学校 5年 大槻 航平くん 3年 清水 巧くん



ぼくたちは、青梅の河辺川原で観察した野鳥や自然について発表します。
今年も、青梅・多摩川水辺のフォーラムの講師の上田先生の案内で、自然観察会がありました。

3月7日には、バードウォッチングと焼き芋大会が行われました。

「水辺の宝石」と呼ばれる、美しいカワセミをじっくり観察できました。

5月23日には、自然観察会と草木染を楽しみました。

塩野圭子先生のご指導で、川原に生えているハルジオン・ヒメジョオン・ヨモギなどを染める材料にして、ハンカチに思い思いの作品を作りました。

7月4日は、多摩川まるごと遊び塾でした。

ヤマメ・マスなどをつかみ取りして、塩焼きで食べたり、多摩川の伝統漁法の「あんま釣り」を体験しました。

9月5日は、泳いではいけないと学校で禁止されている多摩川で、年に一度だけ泳ぐことができる、ガサガサ水辺の移動水族館がありました。

大人も子どもも、ライフジャケットを着て、川に飛び込んだり、アドベンチャーボートに乗ったり、川の生き物をつかまえたりして、多摩川で楽しく遊びました。

10月17日は、何でも観察しちゃう会に参加しました。野鳥・植物・昆虫・石など、いろいろなものを観察しました。めずらしいハイタカが見られました。水切り石投げ大会もしました。

さて、これから野鳥のテストを行います。

5種類の野鳥の鳴き声を聴いて、鳥の名前を当ててください。みんな河辺川原で見られる鳥です。

わかった人は、手をあげてください。

第一問

この鳥は何でしょうか？

(会場では鳥の鳴き声を流しました)

この鳥の羽根はこんな色です。



第二問

この鳥は何でしょうか？



第三問

この鳥は何でしょうか？



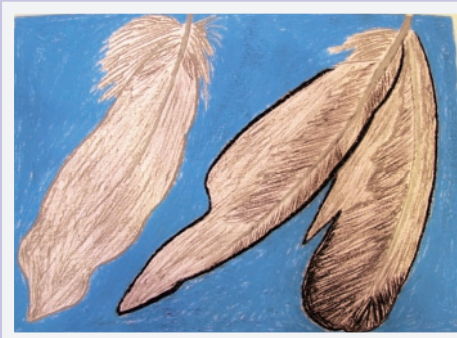
第四問

この鳥は何でしょうか？



第五問

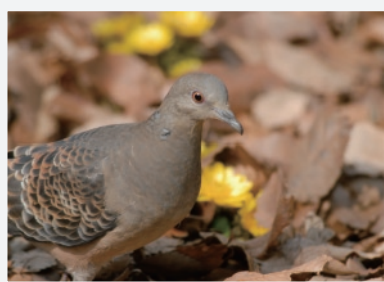
この鳥は何でしょうか？



こたえ

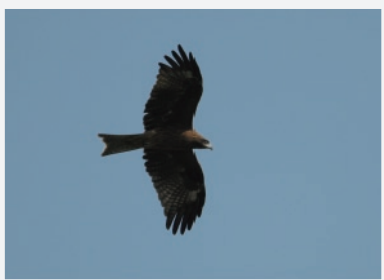
第一問の正解は、**キジバト**です。
よく見かける、おなじみの鳥です。

昔は、山林に多く
住み、「やまばと」
と呼ばれていまし
た。「はとぽっぽ」
の歌は、キジバト
の事だといわれて
います。



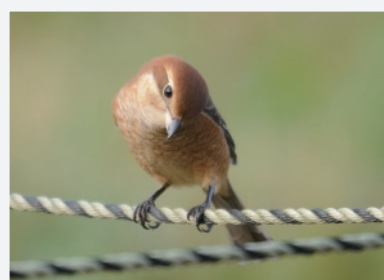
第二問の正解は、
トビです。

鳴き声が特徴的
です。
輪をえがきなが
ら、ゆっくり飛ぶ
姿がよく見られま
す。



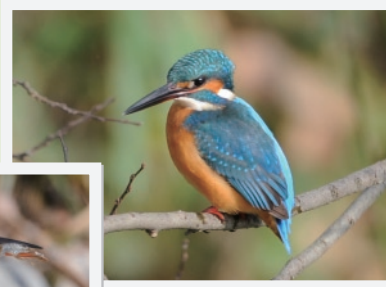
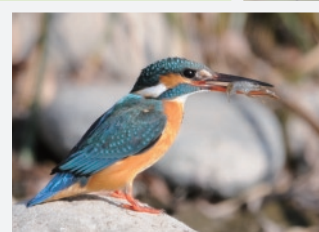
第三問の正解は、**モズ**です。

なわばりを守るた
めに、「高鳴き」と
呼ばれる声を出し
て、秋によく鳴き
ます。
あまったえものを
枝にさす、「はや
にえ」をします。



第四問の正解は、**カワセミ**です。

とらえた魚は、岩
や枝などに叩き付
けてから食べる事
が多いです。

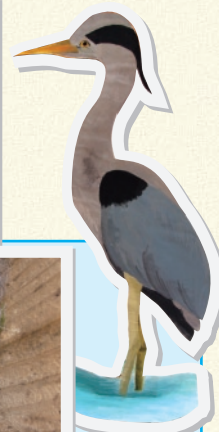
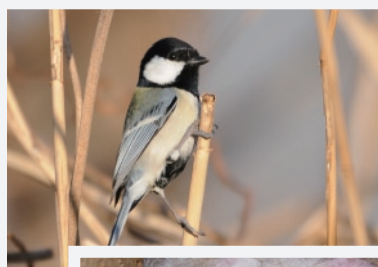


第五問の正解は**アオサギ**です。

日本で最も大きな
サギで、体は灰色
です。
昼間、水辺をゆっ
くり歩いて獲物を
さがし、魚やカエ
ルやトカゲなどを
食べます。



河辺川原では、ほかにも沢山の野鳥を見ることができます。



ぼくたちが通う河辺小学校は、東京都の愛鳥モデル校です。
野鳥たちのために、巣箱コンクールに出した巣箱を、校庭の木に
取り付けたり、えさ台を作って置いています。
今年、巣箱の中でかわいい**シジュウカラのひな**がかえり、元気に
巣立って行きました。

自然がいっぱいの多摩川を、これからも大切にしていきたいです。



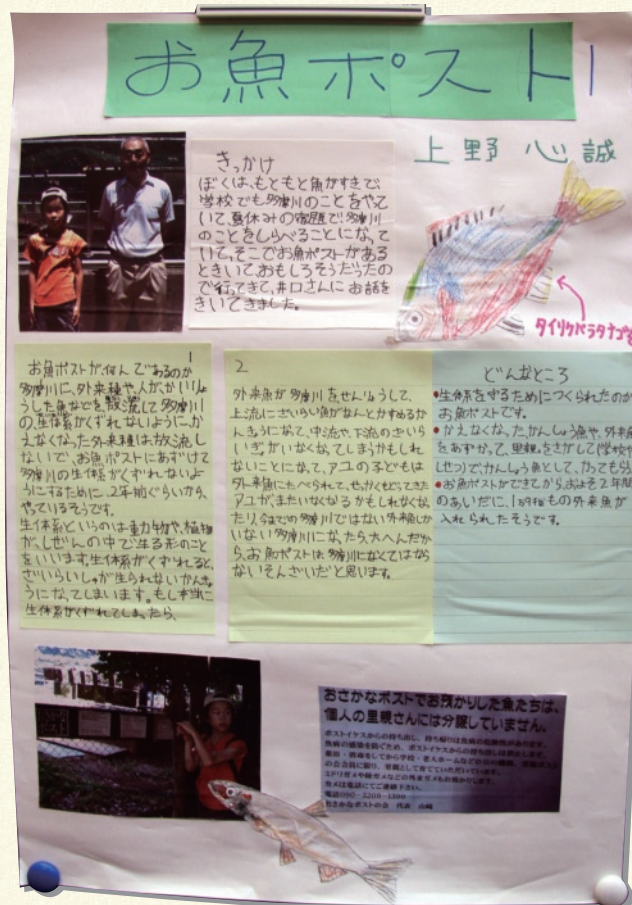


ぼくは、もともと魚が好きで、夏休みの宿題で、多摩川のことを調べることになり、そこでおさかなポストがあると聞いて、関心を持ち、実際にお話を聞いてきました。

おさかなポストが何であるのか。

多摩川に外来種や人が改良した魚などを放流して多摩川の生たい系がくずれないように、飼えなくなった外来種は、おさかなポストで預かり、多摩川の生たい系を守るために2年位前から取り組んでいるそうです。

生たい系というのは、動物や植物が自然の中で生きる形のことをいいます。生たい系が崩れると在来種が生きられない環境になってしまいます。もし本当に生たい系が崩れると、外来魚が多摩川を占領し、上流には何とか在来魚が生息するものの、中流や下流には在来魚が生息できなくなるかもしれません。アユの子どもも外来魚に食べられて、多摩川にせっかく戻ってきたアユがまた見られなくなって、外来魚しかいない多摩川になったら大変です。おさかなポストは、多摩川になくてはならない存在だと思います。



どんなところ

- 生たい系を守るために造られたのがおさかなポストです。
- 飼えなくなった観賞魚や外来魚を預かって、里親を探して(学校や施設)で観賞魚として飼ってもらおう。
- おさかなポストが出来てからおよそ2年間の間に1万9千匹もの外来魚が入れられたそうです。

多摩川水ぞく館お魚ポストの全体図

- ・水そう1にアユがいました。
- ・水そう2にフナ、ウグイ、ニゴイがいました。
- ・水そう3にコイがいました。

この日はコイの稚魚と金魚がポストにいました。

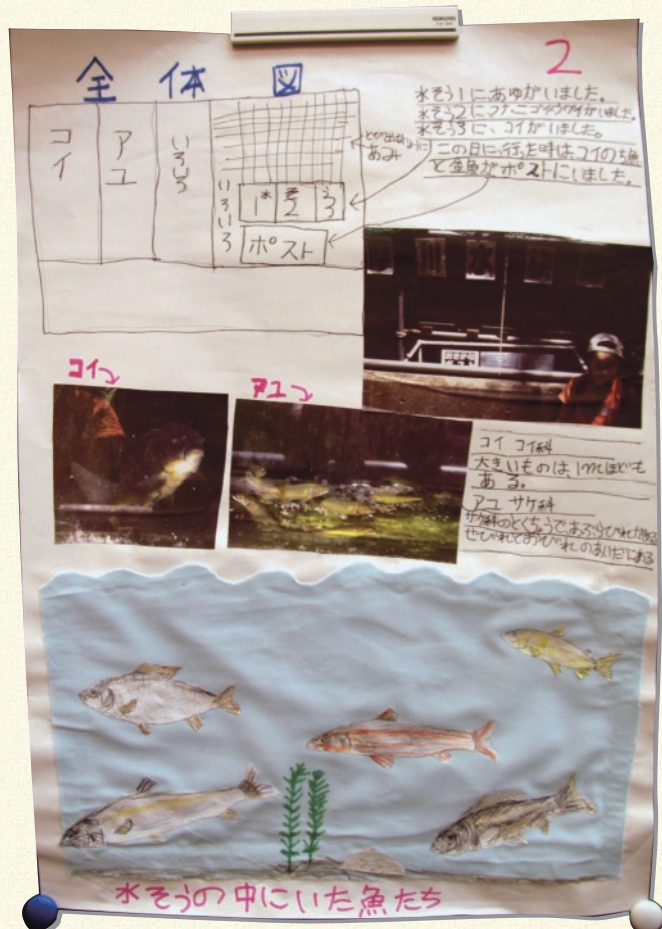
コイ (コイ科)

大きいものは1mほどになります。

アユ (サケ科)

サケ科の特長であぶらびれがあります。

あぶらびれは、尾びれとせびれの間にあります。



聞いて分かったこと

多摩川には、外来魚としてブラックバスやブルーギルしかいないと思っていたけど、ライギョやマルタなど、色々な外来魚が多摩川にいるということが分かった。

また、色々な外来魚がいるということは、すでに生たい系が崩れ始めているということも分かった。

在来魚に比べて、外来魚の方が多く生息していることにおどろいた。

マルタ 大きさ40cm～50cm

平成元年に多摩川に魚をと考えられ、茨城県からわけてもらっていたが、増えすぎて5年前にやめた。産卵のために川から海へ下る、そのような魚のことを回ゆう魚という。

カムルチー 大きさ30cm～80cm

カムルチーはとても大食いで池や沼のカエルなどを食い荒らすので、人からはきられている。

感想

多摩川に、外来魚がたくさんいるなんて、全然知らなくて、ブルーギルやブラックバスくらいしかいないと思っていましたが、マルタやライギョなどのたくさんの外来魚がいることが、とてもおどろいた。外来魚がたくさん増えたら、在来魚が食べられて、多摩川にもどってきたアユも減ってしまう。

おさかなポストのことをもっとみんなが知れば外来魚の放流も減ると思う。

多摩川の生たい系が崩れ始めているので、多摩川の生たい系を守るために、おさかなポストは大切な役目を果たしています。外来種を飼う時は死ぬまで責任を持って飼うようにしないといけないと感じました。

多摩川のアユは、おさかなポストのいけすで生まれたアユが多摩川に放されていることも知りました。



会場からの質問

会場 おさかなポストの中には、他にどんな外来魚がいましたか？
ピラニアが入ってることもあるそうです。

会場 好きな魚は何ですか？
ジブナです。

会場 アユは食べたことがありますか？
あります。



アユの赤ちゃんは、羽田空港近くの東京湾や水の温かな京浜運河で産まれます。



春になり川の水が温くなった頃、ボラと一緒にアユは海から川へ上ります。
この頃アユの体調は5cmくらいです。



アユの子どもたちは、どんどんどんどん川を上っていくと、なんと大きなコンクリートの壁に出くわしてしまいました。
それに大きな口もあります!

アユ! きき 3 れんぱつ!
その1.

アユが魚に食べられちゃってます!

ここで問題: この魚の名前わかりますか?

ヒント: みなさんの隣にも同じ名前の人がいるかもしれません。

「スズキだと思います。」

「正解です!」

会場

アユはどんどん魚の階段を上っていきます。

この魚の階段を「魚道」といってダム横についているものです。



きき その2.

アユは元気に魚道を上っていくと、上から鳥がながめています。

ここで問題: この鳥の名前はなんでしょう?

「コサギだと思います。」

会場



「正解です!」
これが決定的瞬間です。



きき その3.

ヒント：みんなのとなりにいます。
わかりますか？

「つりの人！」

大当たり！

「人間です。」

トモヅリやタモアミでとるんです。
なぜとるかというと…



アユはおいしいからです。



人間はおなかいっぱいになったけど、アユはおなかぺこぺこです。

この3つの中でアユの食べるものはどれでしょう？

1. こざかな
2. いしについたヌルヌル
3. むし

「2ばん。」

「正解です」



アユが石についたヌルヌルをたべると、石はツルツルピカピカになり、この石がナワバリとなり、他の魚を寄せつけません。



秋になると、おとうさんとおかあさんはラブラブになります。

アユはどんなところに卵を産むでしょうか？



1. 水草
2. せの石
3. ふちの石

こたえは2番です。

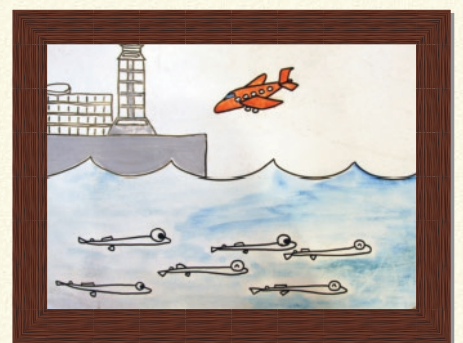
せというのは、水がちゃば
ちゃばしていて、酸素がととも
発生しやすいので、アユの卵
が成長しやすいのです。



アユのおかあさんとおとうさんは、卵を産んでからすぐに死んでしまいます。このように一年しか生きられない魚を「年魚」といいます。

アユは2週間経つと、卵から生まれ、冬の間は京浜運河や羽田空港の近くの東京湾で春まで待ちます。

これで、
「多摩川あゆ太郎物語」を
終わります。



会場からの質問

会場 アユは卵を何個くらい産みますか？
3万個くらいです♪

会場 なぜ、せの流れがあるところでも卵は流されないのですか？

アユの卵にはネバネバした手があってそれが石にくっ
ているので流されないのです。

日野市立潤徳小学校 6年 木村 遥 さん・6年 原口 紗羽 さん・5年 橋本 啓吾 くん・3年 中野 俊輔 くん・2年 中村 真菜 さん

これから、日野市立潤徳小学校、浅川水辺の楽校の発表をはじめます。

水辺の楽校は、浅川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが
思いっきり遊ぶ ことができる 自然体験の場のことです。



水辺の楽校は、毎月行われます。4月は、“多摩川・浅川クリーン作戦”、5月は“浅川で遊ぼうその1”で、竹馬・竹とんぼ・竹ぼっくり・石絵などを作ったり、遊んだりしました。遊び終わると、おいしい豚汁もできました。6月は、身近な環境調査です。7月は、浅川で遊ぼうの2回目で、浅川の源流を探検しました。8月は、“浅川で遊ぼうその3”で、おもいっきり水遊びをしました。9月は“浅川で遊ぼうその4”で、ガサガサ体験をしました。10月は“浅川で遊ぼうその5”で、植物観察をしました。11月は、日野市地域清掃に参加しました。12月の今日“多摩川子ども環境シンポジウム”に参加しています。1月は“浅川で遊ぼうその6”です。どんど焼きをします。2月は、全校集会で水辺の楽校の発表会をします。3月は“浅川で遊ぼうその7”です。地図を読んだり、芋煮会をしたりします。

これから4月から行った水辺の楽校の様子を発表します。

水辺の楽校

浅川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちがおもいっきり遊ぶことができる自然体験の場のこと

水辺の楽校の1年間

- 4月 多摩川・浅川クリーン作戦
- 5月 浅川で遊ぼう1 竹馬・竹とんぼ・石絵・豚汁など
- 6月 身近な環境の調査
- 7月 浅川で遊ぼう2 浅川の源流探検
- 8月 浅川で遊ぼう3 おもいっきり水遊び
- 9月 浅川で遊ぼう4 みんなでガサガサ
- 10月 浅川で遊ぼう5 植物観察
- 11月 日野市地域清掃に参加
- 12月 多摩川子ども環境シンポジウム
- 1月 浅川で遊ぼう6 どんど焼き
- 2月 水辺の楽校発表会
- 3月 浅川で遊ぼう7 地図を読む・芋に会

4月は、多摩川・浅川クリーン作戦でした。

浅川の川原で、ごみを拾いました。

たばこの吸いながら、空き缶、お弁当の容器など、たくさんのごみを拾いました。中にはこんな大きなごみもありました。一人ひとりが気をつければ、ごみはもっと少なくなります。「ごみは持ち帰る」ことを心がけたいです。



5月は“浅川で遊ぼうその1”でした。

竹とんぼづくりは、竹をけずるのが大変でした。



「水辺の楽校」 2年 中村 真菜

わたしは、友だちの石井あゆみちゃんといっしょに水辺の楽校に行きました。むかしあそびをしました。竹うまや、竹でふえをつくりました。ふえは、たてとよこの2しゅるいがあります。わたしは、たてのふえのほうがふきやすくて、好きです。また、水辺の楽校に行きたいです。

「浅川で遊ぼうに参加して」 6年 木村 遥

私は、5月に浅川で遊ぼう1に参加しました。竹とんぼ作りや竹馬や石絵をつくりました。お昼には、地域の方々が作ってくださった豚汁を食べました。竹とんぼは、けずるのがとても大変でしたが、できたときはとてもうれしくなりました。飛ばしてみると空高くとび、さらに喜びがしました。竹馬は練習を一生けん命しましたが、とてもむずかしかったです。また練習して竹馬を乗りこなしてみたいです。石絵はいろいろな色をつかってとてもおもしろい絵ができました。今でもペーパーウェイトとして使っています。このような遊びをきかしてくださった方々に感謝するとともに、もっといろんな遊びを教えてくださいたいなと思いました。

6月は、身近な水環境の一斉調査でした。

私は、6月に浅川潤徳水辺の楽校「水質調査」に参加しました。「ふれあい橋」、「向島用水」、「とんぼ池」、「水車小屋」の4ヶ所を調べました。COD（シーオーディー）やクリンメジャーを使って、水質の調査をしました。向島用水取り入れ口では、COD4で透視度1m30cmでしたが、2回目はCOD1でした。水車小屋では、COD3で透視度95cmでした。

調べてみると、水はとう明できれいでした。こんなきれいな水が流れている場所が近くにあると思うと、とてもうれしいです。小魚やアメンボ、コイなどの生き物もいました。今は自然が減ってきているとよく聞きます。だから、今はいくらきれいでも、それを守っていかないといけないと思いました。

「水質調査」に参加して、今までよりも、浅川や用水路のきれいな水を守っていきこうと思うようになりました。そして、せっかく近くに自然がたくさんあるので、自然ともしっかりふれあい、大切にしていきたいです。



7月は、浅川の源流探検をしました。



「あさ川げん流めぐりに参加して」 3年 中野 俊輔

ぼくは7月18日あさ川げん流めぐりに行ってきました。

潤徳小の先生や緑と清流課の方とバスでさいしょに、あさ川けい谷というあさ川の上流の方へ行き、1時間くらい川で水遊びをしました。ここはすごく林の中で家が全くない場所でした。水は早く流れていて流れが早い所は、立つのがやっとでした。でも、水はきれいでつめたかったです。

ぼくは石のすべり台で遊んだりしました。

次に佐戸という所にも行きました。そこは水が少なく流れも弱い川で川はばもせまくなっていました。そこにはカニ、メダカ、オタマジャクシ、アオダイショウがいてカニやメダカをつかまえました。そこで昼ごはんを食べました。空気がすーすーしていて気持ちよくて、すごくおいしかったです。

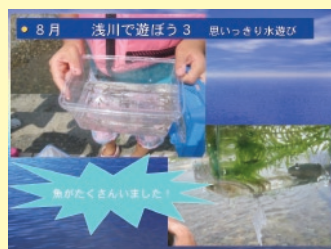
ぼくの家近くを流れているあさ川は、上流へ行くとすごくあさくせまくなっているなんて、びっくりしました。

あさ川の上流はすごくきれいだったので、ぼくの家近くのあさ川も大切にして、ごみをすててる人を注意してあさ川をまもっていきたいです。

いつまでも川で遊んだりできる、きれいなあさ川だといいです。

8月は、浅川で遊ぼうその3で、思い切り水遊びをしました。

少しこわかったけれど、三きゃくから飛びおるときの気持ちは最高でした。滝を滑るのも楽しかったです。水辺の生き物も探しました。魚がたくさんとれました。



9月は、浅川で遊ぼうその4で、ガサガサ体験をしました。

釣りをしたり、川岸をガサガサと探しました。とっても元気なカメも見つかり、ビックリでした。だれかが逃がしたのでしょうか、生たい系が心配です。



10月は、浅川で遊ぼうその5 植物観察をしました。



「浅川の秋」 5年 橋本 啓吾

秋の「水辺の楽校」では、「秋の浅川手配書」にのっている草や虫を探しました。雨が降った後だったので、虫はなかなか見つかりませんでした。でも、イナゴやショウリョウバッタ、とても大きなエンマコオロギがいました。ショウリョウバッタの顔が、ねずみ男に似ていることを「水辺の楽校」で教えてもらってから、苦手だった虫を捕まえて、顔や体を見るのが楽しくなりました。

また、河原に生えている草花を探しながらさまざまなことを知りました。「チカラシバ」でイカグリ作り、ひつつき虫の本当の名前は「オナモミ」の実、「カタバミ」の葉は十円玉をピカピカにします。そして、「ミゾソバ」は土方歳三の生家が“石田散薬（いしださんやく）”の原料として使っていたそうです。

「水辺の楽校」に行くと、おじさんがたくさんのことを教えてくれます。みんなと一緒に遊べます。浅川に、いろんな生き物がいることが分かります。ぼくは、これからも「水辺の楽校」に参加して、浅川博士になりたいです。

11月は、日野市の地域清掃に参加しました。

12月は、多摩川子ども環境シンポジウムに参加しています。

1月は、浅川で遊ぼうその6のどんど焼きをする予定です。

2月は、潤徳小学校の全校集会で、水辺の楽校の発表をします。

3月は、浅川で遊ぼうその7で、地図を読んだり、芋煮会をする予定です。



先日、私たち潤徳小の6年生は、11月4日に、向島用水やトンボ池のお話を水辺の楽校事務局の笹木さんにいただきました。

学校のうらのトンボ池が昔は、コンクリートの用水路で、ごみだらけだったことを知りました。その用水路がたくさんの人々の努力により、今のようなビオトープになったそうです。このビオトープやトンボ池は、国土交通省の事業の「水辺の楽校」のはっしょうの地である事を知り、ほこりに思いました。

「水辺の楽校」もそうです。小倉先生をはじめ、多くの地域の方々、ボランティアの方々のおかげでなっています。私たちのために毎月準備の会議を開き、さまざまな用意をしてくださっています。

これからは水辺の楽校に感謝の気持ちをもって参加します。

これからの水辺の楽校が楽しみです。

これからもよろしくお願いします。

会場からの質問

会場 CODとはどんな水質調査の方法ですか？
薬をつかって透明度を調べる方法です。

会場 8月浅川で遊ぼうでは、どんな魚が釣れましたか？
フナなどの魚が釣れました。

会場 「水辺の楽校」で何が一番楽しいですか？
全部楽しいです♪

会場アンケート結果①

質問 興味をもった発表は何ですか？(いくつでも)

	回答者数	全体比
①多摩川と飲み水の旅	10人	7.2%
②多摩川で魚とり	7人	5.1%
③炭焼き体験と水辺の交流会	10人	7.2%
④奥多摩川・四季の野鳥	9人	6.5%
⑤おさかなポスト	23人	16.7%
⑥多摩川あゆ太郎物語	14人	10.2%
⑦私たちの水辺の楽校	13人	9.4%
⑧水質調査と生物調査	9人	6.5%
⑨森とともに	12人	8.7%
⑩多摩川の外来魚	11人	8.0%
⑪羽田遠漕体験記	7人	5.1%
⑫地球温暖化と多摩川	13人	9.4%

質問 次回は自分も発表したいですか？

	回答者数	構成比
●発表したい	3人	6.5%
●発表はしたくないが参加したい	17人	37.0%
●参加しない	1人	2.2%
●周囲の人に参加・発表をすすめたい	23人	50.0%
●不詳	2人	4.3%



©2007,2009 アイフィールド

質問 発表を聞いて何が学べて、どんな感想を持ちましたか。

- 小・中学生の真剣な姿が印象的だった。
- みんな「多摩川が大好きなんだなあ」と思った。
- 多摩川について、色々なことを学ぶことが出来た。
- 多摩川にそんなにたくさん外来魚がいるとは思わなかったの、びっくりした。
- 小学生のほうが、発表が素晴らしかった。色々な多摩川について教えてもらうことが出来て、良い学習になった。
- 普段の生活でも、水のことを考える大切さを学んだ。
- 飼えなくなった外来種の魚を入れる「おさかなポスト」というものがあるとは知らなかった。
- 「おさかなポスト」というものがあると聞いて、ためになった。小学生は良く調べていて、すごいと思った。
- 子どもたちの学の深さに、心から素敵なことだと思った。
- 「多摩川や浅川は、色々な人たちに愛されているんだな」「これからも大切にしていかなければならないな」と思った。
- 中学生が職場体験で多摩川のことを知る機会を持てて良かった。「今の子どもは恵まれているな」と思った。将来に活かしてほしい。
- 三陸唐桑半島の漁師さんは、植物プランクトンを豊富にするため、流入する河水上流の森の育成から始めている由、多摩川でもCO2吸収に有効な森林育成に、子どもの頃から関心を持ってもらえる多摩川フォーラムは、素晴らしい団体だ。
- 春から孫が何度も多摩川に行き、色々なことを学んでいたことを知った。この活動がもっとたくさんの方に知ってもらえたら良いと思う。私も一度孫と一緒に遊びに行きたいと思った。
- 発想が面白かった。
- 各自が一生懸命取り組んだ成果を大変興味深く見聞させていただいた。有り難うございました。これからも、ますます多摩川を好きになって活動してほしい。
- 子どもたちから色々なことを学ぶことが出来た。
- 子どもたちの目が正しい。
- 環境について、改めて考えさせられた。
- 子どもたちがそれぞれに多摩川と関わりを持ち、そのことに関してそれぞれの方法で発表することは素晴らしいことだと思う。体験するだけではなく、その後こうやって発表することで、自分がやったことを再度整理することになり、子どもたちの心にも残ると思う。
- 知らないことがたくさんあった。子どもたちが多摩川のことを良く勉強しているなどと思った。私たち大人も、もっと自分たちの生活を見直す必要があると思った。今後の生活に活かしたい。
- 子どもたちが川のことを良く考えていて、関心した。
- あゆ太郎物語は、良く出来ていて面白かった。
- 子どもが良く調べていた。
- 自然の大切さを知ることが出来た。
- 良く調べていた。
- 生活と多摩川のつながりにもとづいた発表が多く、面白かった。
- 大きな声で頑張って発表している姿を見ていて、気持ち良かった。
- 多くの子どもたちが、多摩川やその周辺の自然に親しんでいることを知った。体験を通じて、大人がたくさんの知識を子どもたちに伝えていることもわかった。これからも、もっと多摩川を大切に、親しんでいきたい。
- 「おさかなポスト」について、飼う側だけではなく、売る側にもっと知ってほしいと思った。
- 子どもたちの研究発表は、とても素晴らしかった。
- 様々な角度から多摩川に触れ、その楽しさ・子どもたちの心の美しさに感動した。

八王子市立上柚木中学校 2年 阿部 凌平 くん・2年 中島 洋介 くん・2年 吉田 豪太 くん・2年 荒井 陸雄 くん



僕はアイ・トリートという調査会社で
職場体験をしました。その時浅川で体験し
たことを発表します。

【荒井】

僕は**職場の方へのインタビュー**を報告します。

まず、この仕事をやっていて良かったことは、**様々な土地や川に行き、いろいろな生物を見たり獲ったりできる**ことだそうです。あまりに遠すぎて断ったそうですが、ヤンバルクイナの調査依頼もあったと聞きました。逆に、仕事で困ったことは、**天気によってスケジュールが変わる**ことだそうです。なぜなら、仕事の半分は外での活動だからです。アイ・トリートの水質調査の仕事は、主に水の汚れや性質を調べます。しかし、**雨天の場合、水が汚くなり水かさが増える**ので、川がいつもの状態でなくなり、調査できません。天気によって、突然スケジュールが変更になってしまいます。

【吉田】

僕はアイ・トリートで実施した**水質調査**について説明します。水質調査の**測定項目は7種類**あります。それは、**天気・気温・水温・ph・透視度・COD・DO**です。次に何を調べるのかという点から分類すると、このように2つに分けられます。1つめの「**水の状態**」は、左の4つです。左の3つは、川が特別な状態でないことを確かめるのに使います。また、**ph**は、中性・酸性・アルカリ性を調べます。「**水質**」を調べるのは右の3つです。さらに、この3つはこのように2つに分けられます。**水質的**なものはこの2つで、**透視度**は水のにごり具合、**COD**は水の中に存在する有機物の量のことを指します。**生物的**なものは**DO**で、水の中に溶けている酸素の量のことで、魚が生きていくのに十分な酸素があるかを調べます。

次に、それらを調べた結果を説明します。僕は、浅川の鶴巻橋と平山橋の近くで調べました。透視度計で調べると、とても透き通っていました。ただ、平山橋の近くの水がたまっている所は、透視度計を使うと濁っていることが分かりました。

アイ・トリートのインタビュー報告

大変な事は天気によって
スケジュールが変わる事

・水質の仕事なので雨
が降ると**水かさが増え**
水が汚くなってしま
う
こと
・スケジュールが**予定通り**
に行かない事

この仕事をやっていて
良かった事

・自然が相手

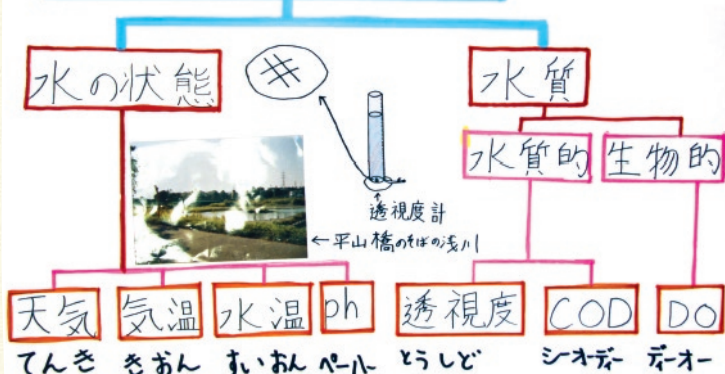
・さまざまな川に行き、
生物を見たり、獲たり
すること



インタビューと体験を終えて、僕は、この仕事は、自然が
相手で苦労もありますが、**調査結果が様々な活用されるの**
で、意義とやりがいのある楽しい仕事だと思います。

水質調査

吉田 豪太



僕達が調べた浅川はきれいでしたが、アイ・トリートの方に
「僕達が川を守るためにできることはありますか。」と聞くと
「**水を使いすぎないようにする**」と答えてくださいました。です
から、僕も、少しずつ使う水の量を減らすなどして、**自分の使っ**
た水が流れていく先の、川のことも考えていきたいです。

【中島】

これから、僕は**水質調査と生物調査で使う道具**について説明します。まず水質調査は**4つの道具**を使いました。最初に**バックテスト**の使い方は水を入れて振り、色の変化は水の汚れの指標として利用します。次に、**PH計**という機械はPH計を起動させ、筒みたいな部分の真ん中辺りを水につけて回し、水の中性、酸性、アルカリ性という基本性質を測ります。3つめの**DO計**という機械もPH計と使い方は同じで、水に溶け込んでいる酸素の量を測ります。4つめの**透視度計**は水を入れて底にある十字がはっきり見える高さを測ります。

No2 アイ・トリート 有限会社

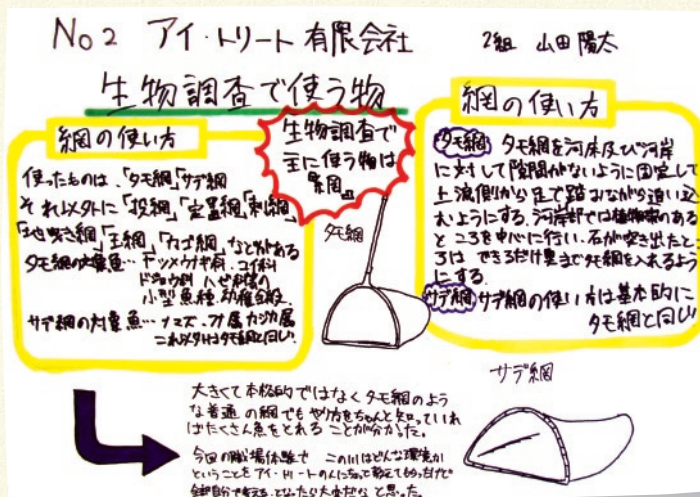
1組 中島 洋介

水質調査で使う道具の説明



次の**生物調査で使った道具**は**網**です。僕達が使った**「タモ網」**は川の底及び川岸との隙間がないように固定して、上流側から足で踏みながら魚を網に追い込むようにします。これを追い込み漁といいます。次に、**サデ網**ですが、タモ網より大きいので大型の魚類を捕獲することができます。

水質、生物調査の体験を終えて、調査はほぼ機械がやるのかと思ったけれど、そんなに機械任せではなく、**手間をかけて調査をしている**ことがわかりました。ですから、僕は、**簡単に川を汚せない**と思いました。

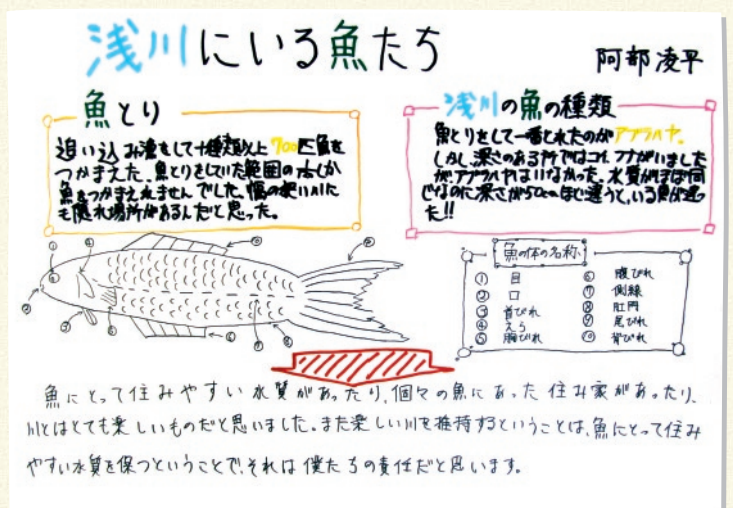


【阿部】

これから**「浅川にいる魚たち」**について発表します。実は職場体験を通じて人生で初めて魚とりをして魚に興味がありました。始めに魚とりについて話します。

僕たちは**追い込み漁**をして、なんと**10種類以上700匹、魚をつかまえました**。しかし、体験で僕達をサポートしてくださった方々に、**魚とりした範囲にいる魚の量の120分の1しか捕まえていない**という話を聞いて、幅の狭い浅川でも、**隠れ場所がある**のだと思いました。

次に、**浅川の魚の種類**を紹介します。魚とりをして一番多く獲れたのは、**アブラハヤ**です。この魚はきれいな水にすむのを好むので、浅川の水質がきれいだと分かりました。次に、少し深さのある所で、**コイ、フナ**の2種類を獲りました。でも、そこにはアブラハヤはいませんでした。このことから、**水質はほとんど同じで50cmほど深さが違うだけで、すんでいる魚が違う**ということがわかり興味深かったです。



魚にとってすみやすい水質があったり、個々の魚に合ったすみかがあったり、川はとても楽しいものだと思います。または、**楽しい川を維持する**ということは、**魚にとってすみやすい水質を保つ**ということで、それは**僕達の責任**だと思います。

以上で発表を終わります。

小菅村立小菅小学校 6年 古屋 将 くん・6年 古菅 竜司 くん・6年 大江 友乃 くん・5年 石原 翼 くん・5年 木下 彩 さん
5年 権正 樹里 さん・5年 上山 優花 さん・5年 船木 優帆 さん・5年 平澤 盛次 くん・5年 奥秋 奈々 さん



僕たちは、総合的な学習の時間「森とともに」の学習で、小菅村の森林について勉強しています。これまで、三つ子山をさんさく散策して、木に生えているウメノギゴケは空気がきれいな所でしか見られないことや、赤松につくマツクイムシは、温暖化によって小菅に入っていたことを知りました。山での緑のダム実験では、人が歩いた所と歩かない所では、水を吸収する時間が、人が歩かない所の方が早いことを知りました。

今日は、今まで調べてきたことを発表します。

1. 小菅村プロジェクト



始めに、小菅村のプロジェクトについて話します。

この中に「未来の苗を植えよう」というプロジェクトがあります。

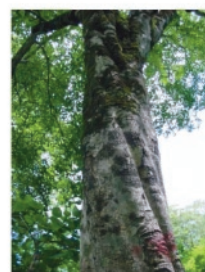
これは、2008年に東京電力から小菅村に、多摩川百年の森プロジェクトで試験的に栽培された2万本の広葉樹が送られたことです。

この広葉樹を植林するために、そのためにスペースをとるため、間伐作業を待たないといけません。そこで小菅村では、村だけでなく多摩川下流域の森づくりにも

生かしてもらいたいという声があり、2009年春から流域の自治体やNPOなどに向けて「ミズナラ・ブナ・イロハモミジ」など14種類の苗を配布しています。他にも、森林再生プロジェクトや多摩川源流百年の森プロジェクト・クリーン作戦などがあります。



←ミズナラ



↑ブナ



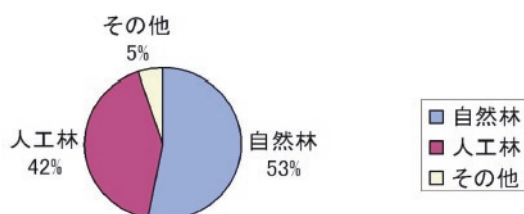
←イロハモミジ

2. 小菅の森林について

続いて、小菅村の森林について発表します。

小菅村は、森林が95%です。その中で、自然林は53%・人工林は、42%です。

小菅村の森林の割合

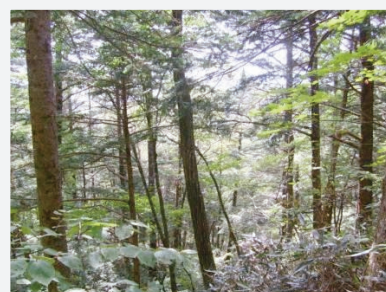


3. 自然林

これから、自然林について発表します。

自然林とは、人工の植林にたよらず、自然に成長した森林です。しかし、自然林は成長したあとは、間伐されてしまいます。

自然林の良いところは、森全体での水を加える力や大気をきれいにする力が大きいです。植物はもちろん、昆虫や野鳥・動物などの種類も豊富です。



4. 人工林

次に人工林について発表します。

人工林とは、生殖を人工・育成を人工で作りに上げた森林です。これは、小菅村の人工林の写真です。人工で森



林をつくることによって品種・品質が整えられて、工業材料として使うことができます。また、手入れの不足した人工林は洪水や土砂崩れ

の原因になります。さらに、放置された里山や竹林は、

人が林内に入ることが難しくなり、身近な自然とふれあう機会を失ってしまいます。

これは放置され、入れない里山の写真です。



人工林や里山の手入れは、とても大切だということが分かります。手入れの一つとして、間伐という作業があります。

5. 間伐

間伐とは、余分な木を切ることです。間伐する理由は、いっぱい木があると、よく成長しないから、余分な木を切ります。間伐すると木がよく成長します。間伐しないと、全部の木が枯れてしまいます。間伐した木は、間伐しない木よりも高く売れます。

間伐に使う道具は、トラック・ヘルメット・たび・シャベルカー・チェーンソーなどがあります。



ぼくは、間伐してもしなくても同じだと思っていたけど、調べてみて、成長しないと大変だから間伐しないといけないと思いました。また、色々な道具をうまく使いこなしたり、危険な

作業をしったりして間伐をしている人は大変だと思いました。

6. 自然林と人工林の違い

まず、自然林と人工林の写真を見てください。



自然林は、生えている木は色々で、遠くから見ると様々な木が生えているのが分かります。

次に人工林は、スギやヒノキなど針葉樹が多く、遠くから見ると同じような木が並んでいるのが分かります。

秋になると、自然林は紅葉し、とてもきれいな色になり

ます。しかし、一般的に人工林は一年中、深緑色です。

これが自然林と人工林の違いと言えます。

7. 緑のダム

最後に、「緑のダム」ということについて説明します。



「緑のダム」という言葉が使われ始めたのは、1970年代です。当時、首都圏で水不足が問題となり、「森林の保水力」も大切だと

いうことを伝えるために、コンクリートダムと対比して、林野庁で考え出された言葉です。

緑のダムとは、雨として降った水を土のように貯め、ゆっくりと川に流すことで、洪水や渇水をゆるめる働きをします。また、水を吸い上げて蒸発させ、川に流れ込む量を少なくする働きを持つ森林のこととも言います。森林には、針葉樹林と広葉樹林がありますが、広葉樹林のほうが吸水性は高いです。

8. おわりに

ここまでが、ぼくたちが調べてきたことになります。これからは、小菅村で11月3日に毎年行われている、

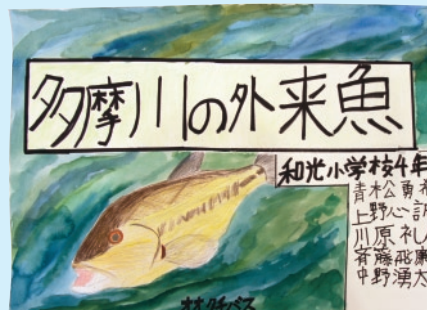
クリーン作戦などのボランティア活動に積極的に参加したいと思います。これからもずっと、小菅村の自然を守っていきたいです。

世田谷区 和光小学校 4年 斉藤 飛廉 くん・4年 青松 勇希 くん
4年 川原 礼人 くん・4年 中野 湧太 くん
4年 上野 心誠 くん



和光小学校では、4年の総合授業で多摩川を扱います。二学期に入ると、子どもたちが決めたテーマごとグループに分かれて活動します。

このグループは「外来魚グループ」として、色々な角度から、多摩川に生息する外来魚について調査し、捕獲するという活動を行いました。残念ながら、ブラックバスやブルーギルなどのような国外外来種はとれませんが、調べたり考えたりしたことをまとめました。



① 外来魚とは

斉藤 飛廉

外来魚

本来そこに生息できないはずなのに、人間の手によって連れてこられた魚をいいます。

① 外来魚

外来魚 本来そこに生息できないはずなのに人間の手によって連れてこられた魚をいいます。

国外外来魚 外国から日本に入ってきた魚のことをいいます。

国内外来魚 その川にはいないはずの魚がほかの川から運ばれた場合のことをいいます。

外来魚がなぜ入ってきたか

多摩川の外来魚は明治・大正時代に食料として輸入された。ブラックバスなどは釣りをする人がよく釣れるという理由で放流された。最近ではペットとして飼った熱帯魚が大きくなりすぎたり数がふえたりして飼えなくなって放流するというのが多い。

国外外来魚

外国から日本に入ってきた魚のことをいいます。

国内外来魚

その川にはいないはずの魚が他の川から運ばれた場合のことをいいます。

外来魚がなぜ入ってきたか

- ・多摩川の外来魚は、明治・大正時代に食料として輸入された。
- ・ブラックバスなどは、釣りをする人がよく釣れるという理由で放流された。
- ・最近ではペットとして飼った熱帯魚が大きくなりすぎたり、数が増えたりして、飼えなくなって放流するというのが多い。

② 移動水族館で見せてもらった外来魚

青松 勇希

☆川崎市生田にある「ガサガサ水辺の移動水族館」で多摩川でとれた外来魚を見せてもらいました。

館長の山崎さんと一緒にとりました。いろいろと教えていただきました。

オスカー 指を入れるとえさとまちがえて指をかみにきました。

マグラロリカリア 30cmくらいあってとても大きかったです。

グッピー 川辺の草のあるあたりをガサガサするとたくさんとれるようです。

ミシシippアカミミガメ 15cm～20cmくらい大きかったです。

アメリカザリガニ 数えきれないくらいたくさんいました。

山崎さんにアユのひものを焼いてごちそうになりました。とてもおいしかったです！

② 移動水族館で見せてもらった外来魚

☆川崎市生田にある「ガサガサ水辺の移動水族館」で多摩川でとれた外来魚を見せてもらいました。



(館長さん4月22日)



「オスカー」指を入れると指をかみにきました。



「マグラロリカリア」30cmくらいあった。



「グッピー」川辺の草のあるあたりをガサガサするとたくさんとれるようです。



「ミシシippアカミミガメ」15cm～20cmくらい大きかったです。



「アメリカザリガニ」数えきれないくらいたくさんいました。

港区 高輪中学校 1年 郷 翔太 くん 大田区立東調布中学校 1年 斉藤 雄太郎 くん

ぼくは、多摩川はいろいろな顔をもっていると思います。

2歳の時、多摩川が見渡せる家に引っ越してきました。鉄橋の上を新幹線がすべるように走る姿が川に映っているのをカッコイイと、くいいるように見ていたのを思い出します。

夕方の多摩川は美しい顔です。空がオレンジ色と紫色をぼかした色になり、川も同じ色に染まり、光を受けてきらきら光っています。春になると川沿いの桜がいつせいに花開き、お花見に行きます。笑顔の幸せな優しい顔になります。冬は渡り鳥がやって来て、中州で休んでいます。

多摩川でボートを楽しむ会

羽田遠漕体験

作文 郷 翔太
絵画 斉藤 雄太郎



5月は五月晴れの中、羽田までボートで行き、遠漕をしました。乗り組み員4人で力を合わせ、力いっぱい漕ぎました。川面をすべるような心地よさは最高でした。



青い空や白い雲が180度ぼくの頭上に広がり、ぼくは不思議な気持ちでした。

川面から見る地上の風景は、いつも地上から川を見ている風景とは違いました。



川は思った以上に曲がりくねっており、緑はきれいにゆれて見えます。





こんなに緑が美しいのは、沿岸をコンクリートで固めず、自然のままだからだと思い、あらためて自然の大切さを実感しました。なぜなら、その湿地帯や川岸の草原には、いろいろな鳥が巣をつくったり、カエルや魚たちが卵を産んだりする大事な生命を育む場所になっているからです。

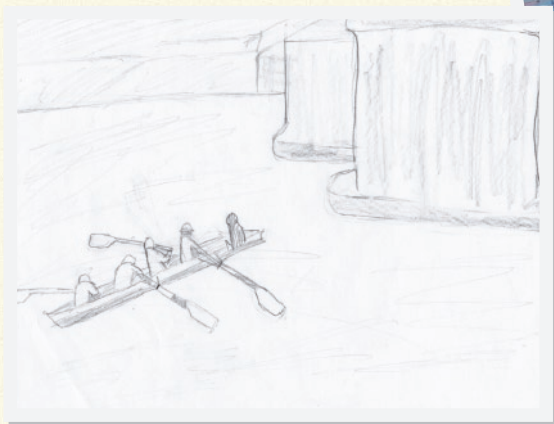
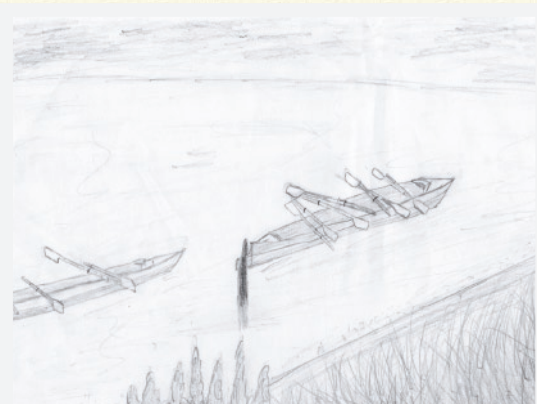
その日、川の上からカエルの鳴き声や、いろいろな種類の小鳥たち、魚たちがたくさん飛んだりはねたりしていることが分かりました。



残念なことも発見しました。ペットボトルなどのごみが浮いていることです。どうしてこんなことをするのかと、悲しくなりました。

川の上から見ていたら気が付かないけれど、川にはたくさんの生命が一瞬懸命輝いていることに感動しました。

ボートを漕いでいる時、多摩川ボートクラブの方々が向こうから、応援してくれて、最後まで楽しく川をすべするような気持ちで漕ぎました。ぼくは、多摩川ボートクラブの方々やこの多摩川の自然に、ボートを漕がせてくださったことに感謝しています。



大きな自然の中で、ぼくは多摩川のいろいろな顔が大好きになりました。この顔をもった川で、ずっといてほしいと思います。

そして、素晴らしい多摩川で、これからもボートを漕げたらいいと思います。

私は、地球温暖化と多摩川について、妹の穂垂と劇風に発表します。



子A「さあ、大きくなれよ～」

子B「ちょ～っとまった!そこのお姉さん!」

子A「はいっ!」

子B「熱帯魚を川に捨てたらだめだよ。」

子A「なんで?」

外来種が川にはいると・・・

在来生物を食べてしまう
在来生物の食べ物を食べてしまう
住処を奪ってしまう

在来生物絶滅の危機



子A『お母さん見てみて魚とった～』

母「どうせ飼えないでしょう、捨てていっちゃい。」

子A「うえ～ん、捨てて来いっていわれたけど、代わりにこの魚を飼ってくれる子はないし…」

子A「そうだ多摩川に放せばいいんだ。多摩川なら、今は水もきれいになってきたし地球温暖化や家庭排水の影響で水温も高くなって、この熱帯魚のアロワナちゃんも生きていけるはず。」



子B「川に熱帯魚を放すとね、在来魚を食べてしまったり、大事な生物の食べ物を食べてしまったり、すみかを横取りして、すみなくさせてしまうんだよ。」

子A「それは大変だね。けど、もともといた川の生き物を守るっていったって、この子を殺してしまうんじゃない、かわいそうだよ。」

子A「どうしたらいいの?」

子B「大丈夫!そんな時は、おさかなポストに入れてあげて。」

子A「おさかなポストって何?」



子B「神奈川県川崎市の稲田公園にある施設なんだ。」

赤ちゃんポストの魚版っていったらわかりやすいかな?

お魚ポストに入った魚は、最後まで大切に育ててくれる里親学校に渡してあげるんだ。」

子A「へー、それなら、この子も大丈夫だけど。でもそれって、捨てるときの最終手段だよな。」

子B「そうなんだ。」

子A「じゃ私、もう一度お母さんに聞いてみる。」

子A「お母さん、本当に魚、飼っちゃだめ?」

母「だめって言ったでしょう。」

子A「は～い。」

子A「やっぱり、お魚ポストをお願いします。」

子B「うん、わかった!」



子B「もし、今の話を聞いて、環境に興味をもったら、ぜひ私たちのイベントに参加してみてよ。」

子A「どんなイベント?」

子B「ライフジャケットを着て、特製のジャンプ台から川へ飛び込んだり、生き物観察をしたり、ときには多摩川の美味しい魚を食べたり、スイカ割りもするんだよ。」

子A「楽しそう!じゃ私、今度参加してみるね。ありがとう!」

これで発表を終わります。みなさんの参加をお待ちしています。



作品賞発表・賞状授与



閉会挨拶



第2部：交流会



会場アンケート結果②

質問 次回に期待するテーマは何ですか

- おいしい多摩川 ●魚(アユ)
- 来年の川の状況に合わせた発表を期待したい。
- 子どもが「多摩川が大好き」と思う気持ちを大切に出来るテーマ。
- 多摩川に生えている植物。
- 紙芝居(生き物)。

質問 その他

- 親水の意味から、子どもが自由に遊べる環境づくりは大人の責務である。水辺の楽校の多摩川圏全域に設置したい。
- 司会の人の進行や語りが上手かった。
- 次回の開催日の発表はとても良かった。

